

(1) 現代教養学科で取得できる資格

「観光実務士」

全国大学実務教育協会が認定する「観光実務士」の資格を取得しようとする者は、次の授業科目を履修しなければならない。

	授業科目名	資格の単位		学修目標	学修目標を達成するための学修プログラム	
		必修	選択			
領域 1	観光概論	2		観光の基本的知識、社会で起きている現象を理解し、将来の就業やライフプランに反映できる。	観光のリベラルアーツとしての側面を理解させ、それを身につける。具体的には、ホスピタリティ、コミュニケーション能力、スキル発揮能力を鍛えるプログラム。	
	ホテル概論		2	ホテル事業の専門知識を修得し、自分のことばでホテル事業、宿泊産業の概要を説明でき、培った知識をホスピタリティ的な行動として発揮できる。	講義で基礎的な知識を身につけたうえで、実際にホテル現場の視察を実施する。学生が講義で知識を身につけ、現場を知ること、将来のしごとに汎用的に応用可能とするプログラム。	
	国内/海外観光地理		2	観光対象について、幅広い知識を身につけ、単に暗記するだけではなく、知識の背景にある歴史や文化まで学修し、自らのことばで説明することができる。	小テストを数多く実施する。主な、いわゆるA級観光地域の知識を、自然、文化、グルメ、祭り等特色な角度から解説するプログラム。	
	ホスピタリティ演習		2	もてなしの基本マナーについて、なぜそのようにするのか、その理論や理論に基づいたさまざまなケースについて、どのように行動すべきかを考察しながら、ホスピタリティマインドを育成し実践できるようになることを目標とする。	ホスピタリティとはもてなしの科学である。ホスピタリティの基本概念、ホスピタリティ構成要素、ホスピタリティ精神の表現、環境とホスピタリティ、ホスピタリティと企業組織、家庭におけるホスピタリティなど、理論を学修し、演習を通して実践的な能力を身につけるプログラム。	
	現代社会とキャリア		2	自分らしく生きるとはどういうことか、これからの生活について、考え、理解し、自分の人生設計に役立てることができる。	人生設計に必要な結婚や就職などのライフイベントや社会問題などについて、生活にかかわる諸課題や問題点を捉え、解決の糸口を見つけ出ししていくプログラム。	
領域 2	国内旅行業実務	2		旅行業に実際に就業した際に、企業や地域に貢献できるような、知識、スキル、行動を発揮できる。	国内旅行業事務取扱管理者試験を念頭に、各セクターの予習、授業、復習をPDCAサイクルに落としこみ、身につけるプログラム。	
	国際旅行業実務		2	グローバル化のメリット、デメリットを理解し、日本社会を世界の動きの中で捉えることで、日本から諸外国、諸外国から日本へ移動し交流することの価値を、自分のことばで説明することができる。	グローバル企業で活躍するため、出入国法令や実務、海外航空運賃等について学修する。学生が総合旅行業事務取扱管理者を目指すことも奨励・支援するプログラム。	
	プライダル概論		2	プライダル事業の持つ、文化性、伝統性を理解する。国際ウェディングやハネムーンなどの意義を含め、現代的なプライダル関連産業を理解し、その社会的意義を説明することができる。	プライダル事業、プライダルに関わる諸産業の知識と現代的意義を学ぶ。また、実際にプライダル企業を視察し現場のしごとを実感的に学び就業を含め将来設計ができるプログラム。	
	ビジネス実務	2		ビジネス(事業)とは何かを把握でき、ビジネス現場の様々な活動と連動させて促せることができる。	ビジネス実務に必要な話し方や対応、ビジネス文書作成、管理等を実践演習によって学ぶプログラム。	
領域 3	学修ゼミⅢ(卒業研究)	2		学修の集大成として、個人と全体の協力・協調を実現し、研究テーマを完成させる。	指導教員の助言・指導を得ながら研究テーマに取り組む。個人レベルでの達成が追求されると同時に、研究発表にむけた全体としての協力・協調も実現するプログラム。	
	FSP講座		2	「聞く」「話す」の理論と技術を、実践例を紹介しながら学ぶことにより、チームで発表資料を作成し、論理的な発表ができる。	企業から与えられた課題にチームで取り組むことにより、社会を理解し、課題解決のプロセスを学ぶ。そして、課題に対する提案を発表するプログラム。	
	就業体験(インターンシップ等)		1	インターンシップの実体験を通して、実務実践力の理解を深め、自己の学習課題に気がつくことができる。	企業および行政等のインターンシップと、その事前・事後学修を含め、実体験により実践力を身につけるプログラム。	
		8	15	必修 8単位	選択 15単位以上	総単位数 23単位以上